

「諏訪地区教科用図書採択研究協議会並びに諏訪地区教科用図書調査研究会合同会議」議事録

日時：令和6年7月31日（水）午後1時30分～3時10分

場所：諏訪教育会館 大会議室

1. 開会（富士見町教育委員会 子ども課長）

ただいまより、諏訪地区教科用図書採択研究協議会並びに諏訪地区教科用図書調査研究会合同会議を開催させていただきます。

初めに諏訪地区教科用図書採択研究協議会の会長であります富士見町矢島教育長より挨拶いたします。

2. 諏訪地区教科用図書採択研究協議会長あいさつ（富士見町教育委員会 矢島教育長）

皆さん本日はご多用中のところご参集いただき、誠にありがとうございます。

本日は令和7年度から使用する中学校用教科書について採択を行います。

調査研究委員会から報告された資料に基づき議論をしていただき、委員の総意によって選定させていただきます。

そのため、本日は調査研究委員会の各教科の正副研究員長にも出席していただいております。調査研究員の先生方には、1学期の公務の多忙の中、少数精鋭で定められた期間で慎重かつ熱心に調査研究を重ねていただき、報告書を作成していただきました。

選定に関わるこの研究は、本格的な教科書研究・教科指導の研究の場であり、研究に携わった経験により培った力量を今後の教科指導に繋げていただけることと確信しております。

特に正副研究員長の先生方には調査研究の方向づけや取りまとめ等、大事な役割を果たしていただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

子供たちがどんな教科書でどんな学習をし、楽しく学習できて意欲的に学ぶことができるのかが極めて重要です。

いずれの教科書もそれぞれによくできておりますので、甲・乙つけがたい難しさもあろうかと思いますが協議会委員の皆様には、学習の主体者である子供の立場に立って議論をしていただき、適切な教科書を選定していただけるようお願い申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 諏訪地区小中学校校長会副会長あいさつ（川岸小学校、小口校長）

矢島教育長先生からお話がありました通り、あの短い期間で、集中的に各種の教科書を見ていただきました。本当に委員長、副委員長の先生初め、委員の先生方お疲れさまでした。

私もかつて経験した際、教科書を見比べ、この単元ってこういうことを大事にしているんだな、ということに改めて思い返したり、こういうアプローチの方法があるのか、というようなことも勉強させていただきました。

短時間に本当にご苦勞をいただきました。今日はここで発表していただいて、一番子供たちにとっていいと感じたところを採択していただくという、こういう道筋になってくると思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

事務局：協議会の規約第6条第1項により、この会議は委員の過半数かつ各市町村1名以上の出席により成立すると規定されています。  
本日委員13名に出席いただきかつ、各市町村1名以上の出席がありますので定足数に達したことを確認いたしました。  
これより議事に入ります。  
規約同条第1項の規定により会長が議長を務めることになっておりますので、以降は矢島会長に議事の進行をお願いしてまいります。

#### 4. 議事（議長：矢島協議会長）

(1) 令和7年度以降使用諏訪地区教科用図書採択の調査について

ア 事務局から教科書展示会の結果について

議長：はじめに、本日の会議ですが、全体で2時間程度を予定しております。  
また、本日の議事録につきましては、規約第13条に基づき、後日公開となることをあらかじめご承知おきください。  
ア「教科書展示会の結果について」事務局の説明を求めます。

事務局：資料の5ページをご覧ください。教科書展示会は、南信教育事務所により、記載の期間、諏訪教育博物館で開催しました。  
来場者は51人で、アンケートは過去の教科書との比較や、発行者ごとの違いについて感想や意見等がありました。  
説明は以上です。

議長：ただいまの説明に対し、質疑はございますか。（なし）

イ 調査研究会から教科用図書の調査報告及び選定について

議長：次の教科用図書の調査報告及び選定については、各調査研究委員会報告をいただき、質疑、意見交換を行います。  
なお、各教科が概ね10分ぐらいで、選定を進めたいと思います。  
説明と意見交換につきましては、要点をまとめて簡潔に発言してください。  
研究結果を報告いただく際には、研究委員会としてどの教科書が最も適切と判断したのか。  
根拠となる具体的な所見とともに、5分以内で説明をお願いいたします。  
質疑や意見を述べる場合は、事務局職員がマイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。  
それでは国語からよろしく申し上げます。

国語科：まず国語1つ目は、東書です。

研究員長：具体的所見に細かなことを書かしていただきましたけれども、総合的所見のところに書かせていただきましたように、社会や未来に繋がる未来を考えるための9つのテーマが冒頭に配置されています。  
それをもとに各教材がどのような社会的なテーマ、未来に繋がるテーマと関わっているのが明示されています。

そのことによって子供たちが、今自分が学んでいるこの作品・教材は自分の未来や将来についてどのような関わりがあるのかを意識しながら学習をしていく、そのようなことが可能になるように配慮されています。

また、学習の過程、そこを重視しまして、何に着目して学習し振り返るのかを生徒目線で示してあります。

また、読む・話す・聞く・書く、各領域が繋がるように教材が配列されています。3年間で同じ系統の力を段階的に積み上げることを意識した配置となっております。

また、デジタルコンテンツは、家庭学習での活用もできることを想定し、語彙の学習も充実を図っていると言えます。

総体として、社会生活との関連を常に意識しながら学びを進められること。

また、何のためにどんな力をつけるのか、それを明確に意識しながら、今後の学習が進められる展開できる教科書となっている。そのように委員会では意見をまとめました。

2つ目ですが三省堂です。

個別最適な学びと協働的な学びの実現を「主体的に学ぶ」「対話を通して学ぶ」「深く学ぶ」という大きな三つの柱で達成しようという基本方針のもと、教材を配列してあります。学習の系統化が図られております。

各教材の冒頭に「つきたい力」として学習目標を示し、また「学びの道しるべ」で丁寧かつ簡潔に学習のプロセスを示しております。

見通しを持って生徒が学習に取り組める工夫と言えます。

「読み方を学ぼう」というところがあるのですが、そのところについては、何をどう読むのか。そうすることでどんな力がつくのかを明示してあります。

全体としまして、デジタルコンテンツも個別最適な学びを支えるものとなっておりますが、学習の狙いと過程を明確にしながら、具体的に学び方を示す。そのことによって、生徒の主体的な学びを支え深めていく教科書となっている。そのように委員会ではまとめました。

3つ目光村です。

知識および技能に示された指導事項を確実に押さえたうえで、その力を活用して各領域の言語活動を行いながら、思考力・判断力・表現力等を無理なく高めていける構成となっています。

学年ごとに学びを深めながら、上昇志向のある螺旋的な配置を意識して教材が配列されています。

言葉の力を積み重ねていくことで、資質・能力の確実な定着を3年間の学びの中で図ることを狙っています。

見通しを持つ。実行する。試行錯誤する。振り返る。という学習の流れを基本とし「学びへの扉」が生徒の主体的な学びを支えるように、学習の流れを的確に示しています。円滑に学習が深まる工夫が随所になされていると言えます。

話すこと・聞くことについては、様々なテーマが発達段階を考慮して配列されており、音声や動画を活用して学べるように工夫もされており、教科書から自分の生活、また将来へと繋がるようになっております。

デジタルコンテンツも充実しております。ICT機器をより効率的に活用できるよう、学習場面の設定等は、生徒の意識の喚起や発展的な学習に繋がるものとなっております。

全体としまして、様々な観点から見ても、今求められている学びを支える配慮・工夫が適切になされていると感じます。

また、生徒の思考の流れや、多様な生徒も想定した学びやすさへの配慮が適切になされています。

これまで諏訪で大事にしてきた子供たちの思いから、子供たちの発想から、子供たちの気づき、興味関心から、そこを大事にしながら学習を組み立て学びを深めていくことができる教科書になっております。

委員会としましては、光村の教科書がこれまでの諏訪の教育の流れを大事にし、また、子供たちの学びを今求められている教育の枠を超えて、支えていく。そのような教科書であると判断をしております。

別紙2についてはご覧ください。

議長：ありがとうございます。

まず、説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。（なし）

次にご意見がありましたらお願いいたします。（なし）

よろしいでしょうか。

意見が集約されたと判断し、国語につきまして最終決定をしたいと思えます。

国語は、光村を選定いたしますが、よろしいでしょうか。（異議なし）

全会一致で光村を選定することに決定いたしました。

それでは続きまして、書写をお願いいたします。

国語科研究員長：1つ目三省堂です。

「社会生活に生きる書写の力」それをつけていくということを狙っております。自分の字をより良くするという明快な目標が設定をされておりますので、各教材を見開き2ページで学習できるように構成しており、また自分の字を意識しながら自分の字を高めていく、そのような学習が展開できるように配慮されています。

「書き方を学ぼう」では、書き方のポイントを取り上げ、一目で学習内容が見渡せるように工夫されているのは生徒の円滑な学習の大きな支えになると考えます。

また、小学校や高等学校との接続を視野に入れ、今の学習がどの位置にある学習なのかということも意識できるような構成になっております。

全体としまして、自分の字を高めていくという明確な目的意識を中心に据えながら、毛筆はもとより、毛筆での学びと硬筆での学びの連結をより円滑に進められる。そのような構成になっている教科書と、委員会では判断をしております。

2つ目教出です。

他の教科書よりも版が大きいAB版を使用しております。そのことの良さとして、余白も十分に取った広いお手本の提示が可能になっております。

自分の文字と教材文字を比べ、自分の課題を見つけ、解決方法を見通して取り組む。他の文字に活用し、一般化するという学習過程を置いております。

自分の文字についてじっくり考えたり、生徒相互の会話を通して気づきを得るなど、自ら考え伝え合うことを通して生きて働く力を育むことを支えるそのような構成となっております。

選択課題教材を設けたり、補充教材として11の毛筆教材を設定したりするなど、

学習の広がりにも対応する工夫がなされています。  
全体としまして、紙面の広さを活かし、見開きで学習内容や手順を大きく示すことなどを初めとし、生徒が学習をより円滑に進めることができる、そして深めることができる教科書となっている。そう委員会では判断をしました。  
3つ目光村です。  
文字を書く楽しさや喜びが体感でき、学ぶ達成感を感じながら取り組める構成となっています。  
書写学習の目的を明確にし、何をどう学ぶか何ができるようになったか。  
身につけた力をどう生かすかを生徒自身がわかり、主体的に学習に取り組めるように工夫がされています。  
従来行われてきました毛筆の学習を生かしながら、硬筆で書く活動を豊富に位置づけることで、実生活で学習の成果を活かせるそのような配列になっております。  
また、生徒がデジタルと手書きの、それぞれの良さについて考える教材が新たに設けられており、書写の今日的課題を意識しながら学習を深められるような配慮もなされています。  
二次元コードもついておりまして、デジタルコンテンツも生徒の学びを伝えるものとなっています。  
全体としまして、生徒の学びやすさ、指導の円滑化が図れる配慮が適切になされ、毛筆を柱としながら、硬筆での学習も多く取り入れ、楽しみながら実生活で生きて働く書写の力を主体的に身につけていくことができる教科書となっています。  
また、巻末にあります「書き初めマスターブック」はその部分を活用しますと、書き初めについて指導事項が全て網羅されるような構成になっておりまして、これも今、諏訪で行われています書写授業に沿ったものとなっていると感じます。  
以上のことより、光村の書写の教科書がこれまでの諏訪の学びの流れ、あるいはこれから生きて働く力として子供たちに文字をどう美しく書いていくか、どう個性的な自分の文字を作っていくかという点で、生徒の学びを支え深める教科書となっていると判断をします。  
別紙についてはご覧ください。  
以上です。

- 議 長 : ありがとうございます。  
まず、説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。(なし)  
次にご意見がありましたらお願いいたします。(なし)  
よろしいでしょうか。  
意見が集約されたと判断し、書写につきまして、最終決定をしたいと思えます。  
書写は、光村を選定いたしますが、よろしいでしょうか。(異議なし)  
全会一致で光村を選定することに決定いたしました。ありがとうございます。  
それでは続きまして、社会科お願いいたします。  
社会科についても地理・歴史・公民と地図それぞれ別に行いたいと思えます。
- 社 会 科 研 究 員 長 : まず地理的分野であります。委員会では東京書籍、帝国書院、教育出版の3社を特に適当と認められる教科用図書と選定しました。

まず東京書籍です。

「地球的課題を振り返ろう」や「未来にアクセス」というコーナーが設けられており、習得した知識を働かせ表現する活動ができるように工夫されています。また、単元の探求課題を据える場面での工夫に他社と比べて大きな特徴があります。

世界各州の学習では、各州の自然環境、生活文化を学習し、各州独自の視点を明示しながら探求課題を設定する流れになっていて、生徒の思考の流れを大事に考えた単元の導入になっております。

2点目、帝国書院の教科書です。

「とびら」や「写真で眺める」を設けるなど、特に地図、写真、グラフなどの資料が見やすく、生徒の学ぶ意欲をかき立てるといふ点で特徴があります。

また、「地図帳活用」というコーナーが設けられており、位置や分布、他地域との結びつきを地図上で捉えられ、学習がより深められるように工夫がされています。

3点目教育出版です。

この教科書は「問い」を軸に、課題解決に追求していく単元構成により、主体的・対話的で深い学びを実現できるように工夫されています。

特にその問いについては、「なぜ」という形の問いが、他の教科書に比べて多い教科書になっています。

どの教科書も導入部→展開部→終結部という形で単元が構造化されていて、また、1時間見開き2ページで授業が構成され、その中で学習課題が明記されて単元を通じて、また1時間の中で「問い」を中心に探究的な学習ができるように工夫されています。

その中でも特に東京書籍は、単元の導入部で単元の探求課題を据える場面に特徴があり、複数の資料をもとに資料を読み取りながら、自然に探究課題が導かれるように工夫されていて、生徒の思考の流れを大事にした導入になっています。

2点目、東京書籍の教科書ですが、単元の終結部で多様な思考ツールを用いて探究課題に沿ってまとめたり、みんなでチャレンジというグループで参加型学習を行う講座が設けられたりして主体的・対話的で深い学びになるように工夫されています。

また、この東京書籍の教科書については、立体感や陰影のある表現を省いたフラットデザイン制度を採用していたり、反射を抑える紙を使用したりして文字や図表を読み取りやすく、必要な情報に集中できるように配慮がなされていました。

という点この大きく3点から委員会としては、地理的分野については東京書籍の教科書を推薦したいと思います。

以上です。

議

長 : ありがとうございます。

まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。(なし)

次にご意見がありましたらお願いいたします。(なし)

意見が集約されたと判断し地理につきまして、最終決定をしたいと思います。

地理の教科書についてですが、東京書籍を選定いたしますがよろしいでしょうか。(異議なし)

全会一致で東京書籍を選定することに決定いたしました。

続きまして歴史をお願いいたします。

社 会 科 研 究 員 長 : 歴史的分野についても、委員会では東京書籍、帝国書院、日本文教出版の3社を特に適当と認められる教科用図書と選定しました。  
まず東京書籍です。  
導入資料から始まり、学習課題と追求、まとめを中心とした構成になっており、生徒の主体的な学習に繋がるように工夫がされています。  
また、関連資料や思考ツール、対話的活動などの学習活動を例示して、歴史的な見方考え方を働かせながら思考を深めることができる教科書になっています。  
2点目、帝国書院の教科書です。  
基本的に統一されたレイアウトで配置された見開き2ページで学習課題を設定し、資料提示から本文と追求資料を手がかりに自ら課題に取り組み思考が深められるように工夫されています。  
また、「琉球とアイヌ民族」の歴史を古代から現代まで取り上げ、多面的・多角的に日本の歴史を捉えられるように工夫がされていました。  
3点目に日文の教科書であります。  
学習課題の手がかりとなる主な「歴史的な見方・考え方」の例が、見開き2ページに1つずつ示され、生徒が学習内容に見通しを持てるように工夫がされている。また、世界と日本の結びつきを意識して様々な出来事や資料を載せ、世界と関わり存する日本を学べるように工夫がされていました。  
この3点の中から、委員会では東京書籍の教科書を推薦したいと思います。  
教科書の基本的な方向性は、地理的分野同様、この3社とも同じで、導入→展開→終結という形で単元が構造化されていて、1時間見開き2ページで授業が構成されているというのも、3社とも共通です。  
その中で特に東京書籍は、まず1点目、導入部に導入の活動というのが設けられていて、対話的活動を通して探求課題が設定できるように工夫がされていました。  
2点目、対話的活動を促すみんなでチャレンジが様々な場面で設けられており、対話的活動を通して思考を深められるように配慮がされています。  
3点目、各章の終末に多様な思考ツールを活用して学習内容を整理するまとめの活動があり、事象の関連や流れをまとめて時代の特色をつかむ学習が展開できるように工夫がされていました。  
以上です。

議 長 : ありがとうございます。  
今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。(なし)  
次にご意見がありましたらお願いいたします。

協議会委員 : 意見の前に感想ですけれども、冒頭の教科書展示会のアンケートに目を通しましたが、歴史の教科書に対して記述がすごくたくさんあってかなり教科書を選ぶ難しさを感じています。  
昨年小学校の教科書を選定した際にはこういう意見はなかった。今年はとても多い。特に歴史の教科書に絞って書かれているので慎重に歴史の教科書については、やっぱり子供たちの学びという観点から教科書を選考するのが大事ななとい

うふうに思います。

今、調査研究委員長の先生からお話があった通り、昨今の子供の学力について、思考判断・表現、こういう力が問われている中で、特に東京書籍の教科書もそういう力を育てるために、ただ単に歴史を記述していただくだけではなくて、きちんと学習課題を据えて、それについて学習を深めた上で、トライという活動があって、こういうことについて説明してみましようという活動ですけれども、さらにその上に、みんなでチャレンジ。グループの中で主体的に話し合ってみよう。さらにその上に、もっと知りたいという探究活動も据えている。そういう流れをとっても大事にした教科書で、最新の資料を駆使して、見開きのページで使いやすい教科書であるなというふうに私も思います。

したがって私も東京書籍の教科書を採択することに賛成です。

議長：他にありますか。

協議会委員：歴史の教科書については何社も出版されていて、関心を持って各社の教科書を読ませていただきました。

今ありましたが、それぞれの歴史というのはどこまで記述するかということ、各社の特色があるなということも思ったところですが、どのぐらいの量がそこで示されていてその先どこから子供たちが調べればいいのかという観点から見たときに、あまり情報量が多くなっても十分だろうなということや、あるいはレイアウトの問題ですとか、そうしたことから見やすい配置なども教科書選定には大事だろうなと思って読みました。

そういう面で、ただいま報告がありました東京書籍は、先ほど帝国書院の中にも琉球やアイヌ民族の歴史がありましたが、これらも東京書籍の教科書には記載が当然ですがありまして、そうした現代的な課題も含まれていることから今の調査委員の報告の通り東京書籍の教科書が適切ではないかということをもも思います。

議長：他にご意見がありましたらお願いいたします。（なし）

意見が集約されたと判断し歴史につきまして、最終決定をしたいと思います。歴史の教科書についてですが、東京書籍を選定いたしますがよろしいでしょうか。（異議なし）

全会一致で東京書籍を選定することに決定いたしました。

続きまして公民をお願いいたします。

社会科学  
研究員長：公民的分野についても、委員会では東京書籍、教育出版、そして帝国書院の3社を特に適当と認められる教科用図書として選定いたしました。

まず東京書籍です。

導入の活動をもとに探究課題を設定し、1時間ごとの学習課題を追求する課題解決的な学習になるように工夫がされています。

また、多様な思考ツールを掲載しており、学びを振り返って思考整理したり、考えを構造化したりできるような工夫がなされていました。

2点目教育出版の教科書です。

持続可能な社会の実現のために何ができるかというのが全体のテーマになってい

て、各時間に関連するSDGsが示されております。

13ある特設ページは今日的な課題をテーマにしながら持続可能な社会に向けて考え、表現する活動が設定されていました。

3点目、帝国書院の教科書です。

主体的な社会参画がこの教科書の大きなテーマとなっており、実社会に興味を持てるよう、身近な事例が多く扱われています。

また、社会参画を疑似体験できるシミュレーション型の課題や、対話を通して学びを深められる工夫がなされていました。

この中で、委員会としては、東京書籍の教科書を推薦したいと思います。

教科書の基本的な構成については、地理的分野、歴史的分野同様、公民的分野についても導入→展開→集結という形で単元が構造されていて、1時間見開き2ページで構成されているというのも、この3社に共通する特徴であります。

その中でも特に東京書籍の教科書については、やはり地理的分野と歴史的分野とも重なりますが、単元の導入部に導入の活動というのが設けられており、その導入の活動を通して、単元を貫く学習問題。教科書では探究課題と呼んでいます。それがスムーズに設定できるようになっています。

他の2社の教科書にも導入の活動はあるのですが、東京書籍の教科書は最も生徒の思考の流れに沿ってスムーズに設定できる教科書になっていると判断しました。

また2点目ですが、その導入部に特に東京書籍では、みんなでチャレンジという対話的な活動から導き出す課題を一部引き出すというような活動が設定されています。

3点目、単元の終末部でも段階的に取り組むうち、知識を確認して、多様な思考ツールを使って対話的な活動を通して深め、探究課題の解決に導くように工夫されていました。

また、地理的分野同様、フラットデザインというデザインを採用して教科書本文はもとより各種資料も他の教科書に比べて非常に見やすくできている点が優れているというふうに委員会では判断しました。

以上です。

議長：ありがとうございました。

まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。（なし）

次にご意見がありましたらお願いいたします。（なし）

意見が集約されたと判断し公民につきまして、最終決定をしたいと思います。

公民の教科書についてですが、東京書籍を選定いたしますがよろしいでしょうか。（異議なし）

全会一致で東京書籍を選定することに決定いたしました。

続きまして地図をお願いいたします。

社会科研究員長：地図帳については東京書籍と帝国書院の2社のみであります。

東京書籍ですが、資料を大きく掲載し、色覚特性のある生徒が見分けやすい色遣いを採用して、生徒が読みやすいよう配慮がされていました。

また、「ジャンプ」コーナーや「Bee's eye」を掲載し、複数の資料を関連させて考えることができるような工夫がされていました。

次に、帝国書院の地図帳です。  
多様な資料を同縮尺の地図上に掲載することで比較したり、関連付けたりしながら思考を広げられる工夫がされていました。

SDGsや最新の世界情勢を反映させた地図を掲載して、世界の諸課題に目を向けられるよう工夫がされていました。

最新地図の情報量、信頼性また社会情勢を反映させた工夫等が適宜なされており、印刷の色合いや全体的な見やすさにも工夫がなされていました。

この2社のうち委員会では地図帳については帝国書院を推薦したいと思います。  
今述べた通り、それぞれ特色があるのですけれども、特にその中で帝国書院については、地図で最も大切な視認性に優れているというふうに委員会では考えました。

色合いだけでなく、文字の大きさ、情報量の精選など生徒にとって見やすく使いやすい地図帳に帝国書院の方がなっていると考え委員会では帝国書院を推薦したいと思います。

以上です。

議長：ありがとうございました。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。（なし）  
次にご意見がありましたらお願いいたします。（なし）  
意見が集約されたと判断し地図につきまして、最終決定をしたいと思います。  
地図の教科書についてですが、帝国書院を選定いたしますがよろしいでしょうか。（異議なし）  
全会一致で帝国書院を選定することに決定いたしました。  
続きまして数学をお願いいたします。

数学科研究員長：数学は啓林館、東京書籍、学校図書の3者を適当と認める教科用図書として選定いたしました。  
まず啓林館です。  
啓林館の特徴は、数学的な見方や考え方を大切にしているという点です。  
生徒が働かせる数学的な見方、考え方を可視化し、問題解決までのステップを分かりやすく示しています。  
特に今回は、問題発見と問題解決の数学的な見方を区別して明示してありました。また、これまでも現行の教科書も大切にしてきましたが、今回はさらにスペースを広く取っております。  
東京書籍です。  
東京書籍は繋がりを大切にしているというふうに感じました。  
身の回りの事柄を取り上げて問題発見をし、解決。で、その問題解決を通して見つけた疑問から、また次に繋がるよう工夫をされておりました。  
さらに巻末には、日常生活と数学の事象を関連づけて考える発展的な問題が記載されております。  
学校図書です。  
学校図書は、対話的な学びを大切にしている教科書です。  
話し合い活動を促す記載が随所にあり、生徒が対話的な学びによって解決の見通

しを立て課題解決の過程を説明する力を育むよう工夫されておりました。  
問題の文末が説明しようとか話し合おうというふうになっています。  
別紙についてはご覧ください。

どの教科書もそれぞれ良さがあって、QRコンテンツが非常に充実しているなというふうに感じていますが、これまで諏訪や長野県で大切にしてきた子供の基になる数学的な見方や考え方をどう育んでいくのか、子供の問題の解決の過程を大事にしている点から考えますと、委員会では、啓林館の教科書がふさわしいのではないかというふうに考えます。  
以上です。

議 長 : ありがとうございます。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。

協議会委員 : 今ご説明の中にQRコンテンツの充実というお話がございましたけれども、一斉授業とか個別授業、家庭学習等において、QRコードを読み取ることによる学習情報の利活用について生徒の主体的な学習をサポートする上で、前回の教科書から工夫された点などがもしあるようでしたら、わかる範囲で教えていただければと思います。

数 学 科  
研 究 員 長 : 例えばQRコードで読み取ったものを子供たちがメモできるような工夫もされています。それで隣の友達とメモをしながら、ここはこうだよねっていうふうな会話を通して、学べるというような工夫もされておりますし、動画のコンテンツが今回非常に増えました。どの教科書も増えているのですが、特に啓林館はQRコンテンツが豊富だなというふうに感じています。

議 長 : 他にご質疑はありますか。(なし)  
次に意見がありましたらお願いします。

協議会委員 : 一貫した小中学校の学びにおいて、啓林館の教科書を今まで使用してきておりますけれども、やはり生活の中で数理に興味関心を持って自ら考えて、法則や仕組みなどを発見できた喜びそれを他の生活場面にも繋げることのできる、そんな興味深い問題が豊富かなというふうに思われます。  
ぜひ数学の楽しさを多くの生徒が感じて、見通しを持ち筋道たてて物事を考えることの楽しさとか良さを学んでいただきたいと、そんなことを思いまして啓林館の教科書を推薦します。  
以上です。

議 長 : 他にご意見がありましたらお願いいたします。(なし)  
意見が集約されたと判断し数学につきまして、最終決定をしたいと思っております。  
数学の教科書についてですが、啓林館を選定いたしますがよろしいでしょうか。  
(異議なし)  
全会一致で啓林館を選定することに決定いたしました。  
続きまして理科をお願いいたします。

理 科 : 理科は適当と認められる教科用図書として、東京書籍、学校図書、啓林館の3社  
研究員長 を選ばせていただきました。

まず、東京書籍であります。

諏訪の理科教育、または信州の理科教育の中で、我々非常に大事にしてきていることは、事象との出会いや、既習概念との「ズレ」。あれ？これ？っていうような「ズレ」を大事にして、そこから自然現象に挑んでいく子供たちに育てたいなという思いで理科の授業をしています。

そういう観点でいきますと写真や資料、それから問題提示そのもの含めていきますと、日常の現象や既習概念との「ズレ」から始まる学習を非常に大事にされているというふうに委員の中で話をまとめました。

また学習の前後に「before&after」がありますが、問題発見をどういうふうにしていいか、または学んだものをどう一般化するか、そういうところまで意識している段階、それから「問題発見レッツスタート！」では教え込む課題じゃなくて、問題発見をどういうふうにしていったらいいかヒントになる工夫がされている。この点が非常に良いと我々は考えています。

さらに章末問題やコラム等が、自分が学んだ知識を使って、より広げていこうとする意図が感じられ、それに沿った導入の写真やイラスト等の配置等も含めて非常に諏訪の理科で大事にしている視点が最も即していると考えております。

ただ1点、具体的所見にあります。長野県では、1学年の地学分野が1番最後に入っているので非常に寒い時期に露頭を見なきゃいけない。でもこの点については、単元の配置を変えればいいので特に問題ではないというふうに考えております。

学校図書であります。

巻頭に「なぜ理科を学ぶのか」記述されており、単に知識を身に付けることだけが目的じゃないということをきちんと最初の段階から意識させています。

構成は素晴らしいと思います。コラムの「理路整然」に記述されているものは、やはり事象と自分の持っている既習概念そういったものの「ズレ」を大事にされていて、この点でも我々諏訪の理科の授業と非常に大事にしているものは相通ずるものがあると感じています。

ただし、考え方の道筋を非常に教えすぎている感があり、文章表記等をもう少し子供に任せてもいいかなというところは若干印象ではありました。

その他、とても素晴らしい点ではWeb上に教科書が全て公開されています。

教科書を持ち歩かなくてもインターネット上で内容を見ることができる。学びの場を選ばずどこでも学習に向かえる体制が非常に素晴らしいと考えました。

啓林館であります。

「探求」というテーマをもとに生徒自身が興味関心を持って学習を進められるように構成されています。

「探Q実験」「みんなで探Qクラブ」など、探究というキーワードで結ばれています。教科書を学ぶのではなく、自分自身の手で解決していくこの点も、先ほどから東京書籍・学校図書でも言いましたが、諏訪の理科で既習概念との「ズレ」を大事にする、こういう点では非常に素晴らしいと感じています。

また単元配列が高等学校への接続が意識されているカテゴリー分けになっています。若干この点が難しいのかなという印象を受けますが、それでも非常に理路整然とされていると思います。

QRコードも非常に盛りだくさんで豊富に添付されています。  
実験などの答えがズバリ書かれていない点が我々としては非常に素晴らしいのかなと思いました。  
ただし、問題解決学習の形ということでいけば、今まで我々が慣れ親しんできた東京書籍から大きくリードするものとも考えづらく、最終結論としては我々としては、諏訪の理科で大事にしている既習概念との「ズレ」を大事にしている東京書籍が望ましいと結論に達しました。  
以上であります。

議長：ありがとうございました。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。

協議会委員：ただいまの説明に異論があるわけではありませんが、個人的な問題意識から見解を示してもらえばと思うのですが、中学校2年生の化合の学習の中で毎年諏訪地域に限らないですけれども全国的に硫化水素の事故があるんですけども、この取り扱いが教科書によって若干違うのかなという感じもするんですけども、そのあたりの見解がもしありましたらお願いします。

理科研究員長：確かにその点と、あと電池に関わっての扱いが違うところがありました。それぞれきちんと注意事項とか、横にある補足まで読みこなして、教員が指示をしていけば、どの実験も問題ないと思っておりますが、我々の中では東京書籍が全部いいわけではないのですが、適切な実験については、慣れ親しんでいるところで一番望ましいかなという印象は持ちました。  
ですが実験としては、逆に言うと、扱う教師が目印だとか星印とかいろんなマークがありますが、なんでそこに書かれているのかっていう意図もきちんと読み込まないと、やっぱり事故は防げないのかなと思ったので、我々教員がきちんと読み込むことが大事だと思って、改めて見さしてもらいました。  
以上です。

議長：よろしいですか。  
次にご意見がありましたらお願いします。(なし)  
意見が集約されたと判断し理科につきまして、最終決定をしたいと思えます。  
理科の教科書についてですが、東京書籍を選定いたしますがよろしいでしょうか。(異議なし)  
全会一致で東京書籍を選定することに決定いたしました。  
続きまして音楽をお願いいたします。

音楽科研究員長：音楽科では、教育芸術社と教育出版社の2社で、音楽と器楽のそれぞれにつきまして、調査研究を行ってきました。  
委員会といたしまして、音楽の教科書では目標への準拠、歌唱教材、鑑賞教材を中心に観点を定め、また器楽の教科書については目標・教材についてそれぞれ検討を重ねてまいりました。  
どちらの出版社も学習者が主体かつ対話的・協働的な学びを進められるよう様々な工夫がなされておりました。

また、音楽器楽とも特徴を生かした配列と題材ごとのポイントが統一されているため両方とも、まとめて説明させていただきます。

まず、教育芸術社の教科書ですが、各教材ページに学習目標や考えたいポイント、音楽を形づくっている要素が統一して明示されており、学習者が主体となって、対話的で深い学びを実現できる工夫がなされています。

視覚的にも、生徒の興味関心を高めるために、多様な音楽活動の写真が用意されていたり、豊富な資料、キャラクター等が用いられている点。学習カードの機能として「学びのコンパス」というページが設けられておりまして、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせながら思考力、判断力、表現力が伸長されるような工夫がされている点。また知覚したこと感受したことが、分けて記述できるような形式が用いられており、3年間を通して、この点について深めていくことができる。生活の中の音や音楽の特集や我が国や郷土の伝統音楽のページも内容が多岐に渡って充実していて、生徒の状況に応じて広くまた深く学ぶことができるように工夫されています。教材も音楽器楽ともに、生徒が慣れ親しんだ楽曲から魅力的な新曲まで豊富に準備されており、難易度が徐々に上がっていく点や生徒の実態に合わせた楽曲の選択と学習の進め方を選択等もでき、充実した取り組みが期待できるような工夫が各所になされていました。

2点目の教育出版社の教科書ですが、音楽器楽ともに統一感のある構成がなされていました。

音楽表現の幅が広がるよう、いくつかの教材を比較して表現したり鑑賞できるよう、学習が展開されている点。生徒が進んで学習に取り組めるよう、「学習MAP」を明示し、「音楽的な見方・考え方」を働かせることを強く意識される展開となっている点。また個や全体で考えたことを教科書に書き込みながら、対話的・協働的に学ぶことができる点。鑑賞でも聞き比べや体験学習を重視して構成されていました。

器楽ともに教材も慣れ親しんだ楽曲から新しい楽曲の難易度も多様に用意されて、飽きずに学習に取り組むことが期待されておりました。

以上の観点を踏まえ、協議を重ねてきた結果、音楽及び器楽の両方とも生徒が主体的に充実した学習に取り組んでいかれると期待される点から、教育芸術社の教科書がふさわしいと考え、ご報告の方申し上げたいと思います。

議長：ありがとうございました。

まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。（なし）

次にご意見がありましたらお願いいたします。（なし）

意見が集約されたと判断し音楽につきまして、最終決定をしたいと思います。

音楽の教科書についてですが、教育芸術社を選定いたしますがよろしいでしょうか。（異議なし）

全会一致で教育芸術社を選定することに決定いたしました。

続きまして美術をお願いいたします。

美術科研究員長：美術ですが、日本文教出版、開隆堂出版、光村図書の3社について検討を進めてまいりました。

3社とも教科書としての質は高く、表現と鑑賞を一体的に学ぶことや効果的なQRコードの活用など、それぞれに充実していることを捉えました。

そのうえで、それぞれの出版社で特に大事にしている点を比較しますと、まず日本文教出版はこれからの時代を生き抜く資質・能力を養うということを意識し、説明よりも生徒に問いかけ自ら学ぼうとすることを大事にした教科書であることを捉えました。

作品を見る視点を、紙面の中にちりばめ、表現と鑑賞を行き来しながら、主体的に学習することが意図されています。

続いて開隆堂出版ですが、美術で育む資質・能力をどの生徒にも伸ばせるようにすることを大事にした教科書であると捉えました。

そのために生徒自身がこの学習で主にどのような力を身につけることができるのか。それを自身で理解した上で追求できる構成となっています。

最後に光村図書ですが、制作に打ち込む、あるいは作品を見つめる生徒の思いを大事にした教科書であると捉えました。

授業取材を続ける中で、1人ひとりの声を捉えてきたことが伺われ、紙面上に生徒の作品だけでなく、その作品に込めた思いもちりばめた構成となっています。

それぞれの教科書に大事な要素が盛り込まれているわけですが、その中で生徒が自ら考え、主体的に学ぶことを大事にした日本文教出版の教科書は将来を見据えて子供たちに必要な資質・能力を育むという点で適切であると捉えました。

加えてですが美術の教科書においては、市民の作品から受ける印象が生徒の意欲や見通しに大きく繋がります。

そうした点からも日本文教出版が紙面の構成が一番よく練られていて、掲載された作品も一番忠実に色彩などを再現していることを捉えました。

以上の点から、委員会では日本文教出版の教科書が最も適していると判断し、推薦したいと思います。

以上です。

- 議 長 : ありがとうございます。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。(なし)  
次にご意見がありましたらお願いいたします。(なし)  
意見が集約されたと判断し美術につきまして、最終決定をしたいと思います。  
美術の教科書についてですが、日本文教出版を選定いたしますがよろしいでしょうか。(異議なし)  
全会一致で日本文教出版を選定することに決定いたしました。  
続きまして保健体育をお願いいたします。

- 保健体育科  
研究員長 : 保健体育では東書、学研、大修館この3社を適当と認められる教科用図書として選定をいたしました。  
初めに東書です。  
総合的には、新しい時代の学びの実現がキーワードになっております。  
具体的な部分として、1つ目として、習得した知識を実生活に生かすための工夫がされています。  
2つ目。1人1台端末。ICTを有効に活用できる仕組みがより整えられています。  
3つ目。動画や資料などの充実により、生涯に渡って役立つ。そういったスキルを身につけられるような工夫があります。  
続きまして、学研です。

総合的には身の回りにある課題の中から、より考えられた課題を用いて対話的に学習を進めることで学びを深められるような工夫がされております。

1時間の授業の中で学び合いや教え合いといった協働的な学びへと導く工夫がされています。

具体的には、1つ目として、保健体育の学習への興味関心、そういったものがより高められるような配慮がされています。

2つ目に、身の回りの事象から様々な課題が取り上げられ、他の分野や生活等と関連づけて学習できるように配慮がされています。

3つ目として、課題学習の整理の仕方が示されており、学び方を学べる工夫がされています。

4つ目に、評価の観点が明確になるような工夫がされています。

続いて大修館です。

総合的には、小中高の学習内容が明記されていて、中学校で学ぶべき内容が学習指導要領に基づいて精選がされています。

具体的には、導入場面に工夫が見られ、より生徒の関心を強める見出しがあり、生徒が当事者意識を持って課題を捉えられるような工夫がされています。

2つ目に、特集資料により理解の定着の確認や振り返りがしやすく、評価の観点が明確になるような工夫がされています。

3つ目に、ラインボックスがしっかりしていて、視線の移動等が少なく読みやすく、ユニバーサルデザインへの配慮がされています。

比較しますと、東書はやや内容が多く、専門的な分野に関わることもありまして、盛り込みすぎかなというような見解です。逆に大修館については、必要な事項のみがまとめられているような状態です。

全体的なバランス、情報量等を見たり、それから子供がより楽しく主体的に学べるそういった観点から見ますと、委員会としましては、学研の教科用図書を推薦いたします。

以上です。

議長 : ありがとうございます。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。(なし)  
次にご意見がありましたらお願いいたします。(なし)  
意見が集約されたと判断し保健体育につきまして、最終決定をしたいと思いません。  
保健体育の教科書についてですが、学研を選定いたしますがよろしいでしょうか。(異議なし)  
全会一致で学研を選定することに決定いたしました。  
続きまして技術・家庭をお願いいたします。

技術家庭科研究員長 : 今回調査研究した3社とも、身の回りの生活や社会の中から問題を見出し、基礎的基本的な技術や知識の習得を通して、生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決していく力や、よりよい生活の実現。持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことができる内容になっていました。  
最初に東京書籍についてです。

技術分野の教科書から説明をいたします。

何を作るか。ではなく、どのような問題をどのように解決するか。これが技術分野に求められている問題解決のための物作りです。

これを見通しと意欲を持って無理なく取り組めるよう編集されていました。

例えば最初にサステナブルな物作りに挑戦しよう。と、問題発見や、課題設定の入口となるテーマが掲げられ、ニーズやユーザーを意識して物作りに取り組めるよう工夫されています。

そして、困りごとが見つけれない生徒も問題発見をして、課題設定までがイメージしやすいように問題解決例を3コマ漫画で表現してあります。以下、問題解決のプロセスに沿った構成がされており、詳しい資料が欲しければQRコンテンツで見ることができます。

さらに複数の問題解決例が示され、自由な発想で主体的に問題解決に取り組めるよう工夫されています。

このように、技術の見方・考え方を働かせて最適化の視点から、問題解決のための物作りを通した深い学びが実現できるよう工夫されている部分が優れている部分です。

家庭分野では、「いつも確かめよう」で、調理実習に関わる基礎技能の確認が丁寧に記述されるとともに、安全面と衛生面の注意が喚起されるよう配慮されるなど、生徒が主体的に活動したり、家庭実践に繋がったりしやすいようにとても工夫された教科書となっていました。

続いて教育図書です。

教育図書においても、各編、各章において主体的に問題解決に取り組める工夫がされていました。

例えば、問題解決の4ステップを4コマ漫画で紹介し、身近な問題解決事例から生徒が親しみを持って問題解決の流れを学べるように工夫されています。

そして、その次のページに「プチ問題解決にチャレンジ!」として、簡単な制作や育成を通して基礎技能が身につけられるよう配慮されており、考えてみようの振り返りから、自身の問題解決に生かせるよう工夫されています。

家庭分野では、キャリア教育との繋がりを強く意識した編集がされているということです。

例えば、1ページにわたって仕事へのこだわりや中学生へのアドバイスなど将来の職業や未来の生活の参考になるような豊富な資料が掲載されています。

また、別冊のスキルアシスト。制作動画、機能動画により、生徒が迷ったときに頼れるように工夫され、生徒の主体的な学習を技能面からも支えられるよう配慮されていました。

続いて開隆堂です。

技術分野では、ガイダンスで学んだ技術の見方・考え方の視点をAからDの各内容で同じように繰り返し扱い、自然と見方・考え方を働かせる思考パターンが身につくよう配慮されています。

各内容の中も繰り返し見方・考え方を働かせる場面が設定され、ステップアップしながら見方・考え方を深められるように工夫されています。

また、イラストが縁取りされ、鮮明でとても見やすくなっています。

家庭分野では基礎的・基本的な事項を確実に定着できるよう意識された編集となっています。

例えば実践に繋がる科学的根拠を視覚的に丁寧に学習してから実習に臨めるよう配慮されています。

さらに両分野共通ですが、UDフォント等を使用するだけでなく、可能な限り単語が途中で改行されないよう配慮されるなど、インクルーシブの観点での配慮は秀逸でした。

以上ですが調査研究委員会の意見としては、東京書籍が最も適切と考えました。理由は問題の発見、課題の設定については、具体例を図やさし絵で示したり、思考ツールの活用などから問題を構造化して考える手立てを示したりするなど、丁寧に扱われており、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて今後重要な力となる問いを持つ力、課題設定力の育成を目指せるよう配慮されていると考えたからです。

特に思考ツールに関しては、QRコンテンツとして、様々な思考ツールが1人1台端末上でそのまま書き込みができるよう用意され、画像としても保存できます。ロイロノートなどの学習支援システムがあれば共有や提出ができ、学習を深めたり、評価に繋げたりすることができます。

思考ツールを活用して生徒の学びを深いものにしていこうという発想が優れていました。また、QRコンテンツの数・質ともに圧倒的です。

さらには、自社で全ての教科書全ての教科の教科書を編集している強みを生かしたリンク資料も秀逸でした。このように多くの点で完成度の高さがあります。

よって、東京書籍が最も適切であると結論付けたいと思います。

議長：ありがとうございました。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。（なし）  
次にご意見がありましたらお願いいたします。（なし）  
意見が集約されたと判断し技術・家庭につきまして、最終決定をしたいと思いません。  
技術・家庭の教科書についてですが、東京書籍を選定いたしますがよろしいでしょうか。（異議なし）  
全会一致で東京書籍を選定することに決定いたしました。  
続きまして英語をお願いいたします。

英語科研究員長：英語教科書6社ございましたが、どの教科書もいわゆる第2言語習得の過程を大切にされておりまして、「聞く」「話す」。「話す」の中の発表やり取り、「読む」「書く」の4技能の5領域がバランスよく学べるように構成されているという工夫がありました。

またQRコードの方も前回と比べていろいろな情報が多くなっておりまして。その中で、本委員会では三省堂と光村と東書の3冊を候補として挙げております。

1つ目三省堂でございますが、総合所見まず2つ目のところで、学びの見通しを各単元で指定されておりましてその中で新しい文法事項を学んで活用する構成になっております。見通しを持って学べるという構成ができております。

4つ目のところですけども、各Partの終わりに、「Think about yourself」という、テーマは海外でしたり、文化的なものですが、自分はどう思うか。自分ごととして捉え直す。そしてそこで文法事項を使って表現しようとする場が確保されており、目的場面状況を明確にした言語活動その中で思考判断表現力が培われる

ように工夫されているという要素がございます。

総合所見最後のところにありますが、巻末の資料。英語は語彙ですとか文法表現ですとかいろいろな巻末の資料が大事になってきますけども最も充実しております。

必要な情報がたくさん載っておりGoal Activityも設定されているので全部の教科書を見てどのように文法シラバスがなっているかっていうのを、経験の少ない先生方でも幅広く教科書を参考に指導してもらえるとという構成がなされているところがございました。

そして英語の力を高めるといっても当然ですけども、三省堂はこの内容を通して、英語に触れて、その中でテーマに学ぶ・深める・考えると。そういうところも目的とされているところがとてもわかりやすい教科書かなと思いました。

続いて三村でございます。

光村は2つ目にもございますがベースは対話や文章を通して表現に触れさせるということで、その使用状況を意識して新しい表現と出会うかがうまく仕組まれるというそんな工夫がされております。それをインプット、入力する部分からアウトプット、説明とか喋る部分へ少しずつステップ活動が取り組めるように工夫されている部分があります。

具体的所見の1番にも繋がるんですけども、そのストーリーがいろんな話題を使いながら一貫性のあるストーリー。お話がずっと同じ人間が出てきて、盤面を変えて身近な生活で繋がれている場面を通してですので、生徒はとも内容が身近で理解しやすく音声を通して学んでいくこともできるという可能性を秘めた教科書でございます。

具体的所見の3番にもありますが、そのようなストーリー性のあるもので、QRコンテンツは実写での動画もあるということで、内容を導入する上で映像を見るだけでも場面が理解しやすいというようなコンテンツも工夫されているということで英語の習得を生徒の意識を中心にしたそういう教科書だというふうに言えるのではないかなと思います。

東京書籍でございます。所見の5つ目、学習の扉に単元のゴールが示されており見通しを持って学習が進められる。三省堂と同じように見通しを持って学べるという良さがございました。

またその次、Read and Thinkで、読んで考えていこうというページがございますけども、左に文章があつて右に問題があると。なので、生徒がいちいちページを見返したりとかそういった動きがないような状態で安定して読み取る際に余分な情報が入ってこないように工夫されているというところもございました。

このように東京書籍はフォントもそうですけどもUDを少し意識した良さがあるということが言えるかと思えます。

また、巻末にsmall talkというお喋りをするトーク集というのがありまして単元を通じてやる帯学習とかがとても実施しやすくなっているかなということでございます。

具体的所見の3番のところになりますけども、先ほどのUDと関わっておりますが、学習者がそのテキストを見たときに見やすい・学びやすいというところがあるということと、もう一つはQRコードの中に文法の説明というのがどの会社もあるんですけども、一番その文法説明はわかりやすいところが良さとしてありました。

委員会としましては、それぞれ良さがございますが、やはり英語の習得の良さ、学び方の特徴がある良さ、プラス、題材を通して考えを深めていくという意味で三省堂の教科書を最も推薦したいと思っております。  
以上です。

議長：ありがとうございました。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。（なし）  
次にご意見がありましたらお願いいたします。（なし）  
意見が集約されたと判断し英語につきまして、最終決定をしたいと思います。  
英語の教科書についてですが、三省堂を選定いたしますがよろしいでしょうか。  
（異議なし）  
全会一致で三省堂を選定することに決定いたしました。  
続きまして道徳をお願いいたします。

道徳科  
研究員長：まず結論から申し上げます。  
道徳の教科書7社ありましたが、その中から適当と認められる教科用図書は105ページにある光村、106ページにある東京書籍、そして107ページにある学研の3社の教科書が適当と認められると判断し、その中から、道徳科の目標を達成するのに最も適切な教科書は105ページにある光村の教科用図書だというふうに判断いたしました。  
それではその3社の教科書について総合所見を説明していきます。  
まず光村105ページです。  
何を学ぶのか。を意識して、自分なりの目標を持って学習に取り組むこと。そして振り返りを蓄積することで主体的に学べるよう工夫がなされている。  
「問う」に着目した様々な活動を設け、自分事として考えられるような工夫がなされている。また、各学年で様々な人権に関わる三つの教材とコラムを組み合わせしており、3年間を通して人権に対する感覚を養うことができるよう、教材の配列がなされている。ということで、この光村の教科書では問いに最も特徴があり、子供たちが立ち止まって深く考えられるような問いが設けられていたり子供たち自ら問いを立てて考えるような工夫もなされていました。  
そのことによって、子供が自らとの関わりで多面的・多角的に考えを深めていけるような道徳性を育てられる道徳科の目標に最も適した教科書だと考えました。  
106ページ、東京書籍です。  
総合所見、全員教材に生徒のつぶやき書き込める枠と、漫画や、挿絵を大胆に配置したりして物事を多面的・多角的に考えられるように工夫がなされている。また、題材の葛藤場面において活用できる心情円が巻末に付いており、言葉では表現しにくい自分の気持ちを割合で表すことのできるよう工夫がなされている。ということで東京書籍は、子供たちの表現することを大切に考えられた教科書だと。子供たちが表現を書き込めるだけではなく心情円という円を使って二項対立ではなく、片方の考えが3割程度だけど、もう片方の考えも7割程度自分は思いが込められるというような形で、いろいろな表現方法で自分の気持ちが語られるような工夫がなされています。  
107ページ学研の教科書です。  
総合所見最重点テーマを「いのち」として、「生命の尊厳」を中心に様々な内容

項目で命の尊さについて考えることで、人権を重んじ、多様性を受け入れることに繋がる教材が配列されている。

また、生徒の多様な発言を集められるように、主題名を教材の前に書かずに、巻末にまとめ、問題意識を高めるキーワードを配置することで、生徒が主体的に考えられるよう工夫がなされている。

ということで、多くの教科書が、どの教材の最初に、その教材で扱う内容項目。例えば、「思いやり」とか「正義」という内容項目が示されているのですが、この教科書にはそれがなく、代わりに、例えば「帰ってこなかったトム。サムの心に宿ったものは」というような形でキーワードが示されていてそこから先入観なく考えを深めていくと。この点については大変興味深い工夫だというふうに考えられました。

以上です。

議長 : ありがとうございます。  
まず、今の説明に対して質疑がありましたらお願いいたします。(なし)  
次にご意見がありましたらお願いいたします。

協議会委員 : 昨年小学校の道徳の教科書採択のときに、この光村の「きみがいちばんひかるとき」が採択され、私も基本的に賛成の立場でした。  
この継続性という観点からも教科書が採択されることには賛成です。  
道徳の教科書は、歴史そのものがすごく浅いですが、この光村の「きみがいちばんひかるとき」は、教科書ができる何十年も前から資料集としてずっと出版し続けてきた歴史というか蓄積がありまして、その資料の蓄積や、その問いの立て方这件事情に対してはものすごくこだわっていて、特に委員長の先生が先ほど「問う」ということを大事にしている教科書だということに言われましたけど、そのことはとてもよく感じます。それから今回改めて見てみるとやっぱり教科書が進化しているということを感じました。  
単にその読み物資料を並べるだけではなくて、確か中学3年生の道徳の教科書にタコの話が出てくるのですが、そのタコのことを勉強しながら自然愛護の方向に学習を深めていく。あるいは漫画のページが何ページか並びながらその中からだんだん問いが見えてくる。  
そういう配列の工夫、文章資料だけではなくて、あつてはいい違いとあつてはいいけない違いは何かということをいっぱい出し合いながら、やがてはその公平とか公正とか社会正義という価値について深めていくという工夫がすごくあつてこの教科書を採択することに賛成です。  
最後に一つ感想ですけども実は昨年の調査研究委員長さんが作られた総合所見のところに書かれていたことですけども、私達は考え議論する道徳の授業を目指すんだということが書かれていました。  
そのことが大変印象に残っていて、諏訪地方のこの道徳の授業をリードしていく先生方がそういうふうに考えて取り組まれているということに大変感銘を受けて、ぜひそんな方向で頑張っていたいただきたいなというエールと言いますか、教科書の善し悪しはもちろん大事ですけども、先生方のそういう姿勢や指導力はやっぱりもっと遥かに重要なものがあると思いますので、ぜひそんな方向で頑張っていたいただきたいという意見です。

以上です。

議 長 : 他にご意見ありましたらお願いいたします。

協議会委員 : 今の意見と全くの同感であります。  
道徳で何をやっぱり一番大事にしたいかって考えるときに、資料に対して自分がどれだけ共感し、自分事として捉えられるか、そこが一番入口として、そして追求を深めるときにも大事なんだろうなってことを思います。  
そう考えたときに、光村図書の場合は問いが自分事ってことをキーワードとしながら丁寧に展開している点、そんな点から主体的な学びがさらに深まるものがあるんだろうな、そんなことを思います。  
同様に、リフレクションも大事にしている、さらに問い直し学び直しができている、そんなところも一つ魅力だなっていうことで委員会の方の意見に私も賛成であります。  
以上です。

議 長 : 他にご意見がありましたらお願いいたします。(なし)  
意見が集約されたと判断し道徳につきまして、最終決定をしたいと思えます。  
道徳の教科書についてですが、光村を選定いたしますがよろしいでしょうか。  
(異議なし)  
全会一致で光村を選定することに決定いたしました。

(2) 市町村教育委員会における採択報告及び情報公開について

議 長 : 市町村教育委員会における採択報告及び情報公開について、事務局の説明を求めます。

事 務 局 : 協議会規約第11条で協議会の会長は教科用図書を選定したときは、採択地区の市町村教育委員会に対して、選定した教科用図書の種類及び当該教科用図書を選定した理由を報告すると定められております。  
この報告については特段文書をもっては行いませんので、本日の協議会の選定結果を持ち帰り、協議会規約第12条の市町村教育委員会の行う教科用図書の採択の規定により各市町村教育委員会において8月9日(金)までに採択を行っていただき、資料の110ページから111ページにあります報告書により協議会事務局であります富士見町教育委員会へ報告をお願いいたします。  
また、採択結果が出次第、事務局職員の皆様には大変お手数ではございますが、112ページの方法によりまして、メールに行って速報を入れていただくようお願いをいたします。  
協議会規約第13条の議事録及び資料の公表につきましては、事務局が全市町村の報告を受け、採択事務の完了を確認できましたら、各市町村にそれぞれ連絡をいたします。  
それ以降、各市町村における採択の公表はそれぞれの市町村のご判断で行ってください。  
また、協議会、研究委員会の開催経過、資料等、協議会としての公表は協議会事務局であります富士見町教育委員会が一括して行います。  
協議会・研究委員会に関する部分の公表については、事務局にて協議会議事録を

作成し、富士見町教育委員会のホームページ上にて公表をいたします。  
なお、今後の静ひつな採択環境を確保するために、協議会長を除く採択研究協議会構成員および調査研究委員会の研究員の名簿については公表せず議事録においても、発言者の氏名は記載しないことといたします。  
各市町村の公表に際しましては、協議会に関することは、富士見町教育委員会で公表されていることを表記するか各市町村の公表サイトに富士見町へのリンク設定をしていただく等の対応をお願いいたします。  
最後に、公表の時期ですが議事録作成・確認の時間を考慮いたしまして、また県下の各採択地区の状況から採択の期限である8月31日以降とし、9月1日を予定して準備を進めていきたいと考えております。  
説明は以上になります。  
公表についてご協議いただきますようお願いいたします。

- 議 長 : 協議会、研究委員会に関する部分の公表については、議事録も合わせて9月1日に富士見町のホームページでの公表を予定しています。  
ここまでの説明につきまして、何か質問等はございますでしょうか。(なし)  
それでは最後に(3)その他として何かありますか。(なし)  
それでは、以上で議事は終了とさせていただきます。  
本日、教科書の選定に関わり、慎重かつ誠実に議論いただきましたことに感謝申し上げます。  
今後各市町村において今日の結果を先ほど事務局から説明があった日程で採択事務を進めていただきますようお願いいたします。  
本日は本当にありがとうございました。
- 事 務 局 : ありがとうございました。それでは以上をもちまして、諏訪地区教科用図書採択研究協議会、並びに諏訪地区教科用図書調査研究会合同会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。